

ノハラクサフジ *Vicia amurensis* Oett.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。全国的に希少な大陸系の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

つる性の多年生草本。長さ 150cm に達する。葉は互生し、偶数羽状複葉、先端は分枝する巻きひげとなる。小葉はほとんど葉の基部から互生してつき、10~16 枚、狭楕円形~卵状楕円形、鋭頭~円頭、長さ 1.5~3cm、幅 8~12mm である。花期は 6~8 月、葉腋に長さ 3~12cm の総状花序をつける。花は花序の一方に偏ってつき、青紫色、長さ 8~10mm の蝶形花である。豆果は短柄があり、長楕円形、長さ 1.5~2.5cm、幅 5~7mm、無毛である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (山崎玲子 2717, 2002-8-18)、2 豊根 (小林 39356, 1992-9-15)。各 1 カ所に小群落がある。

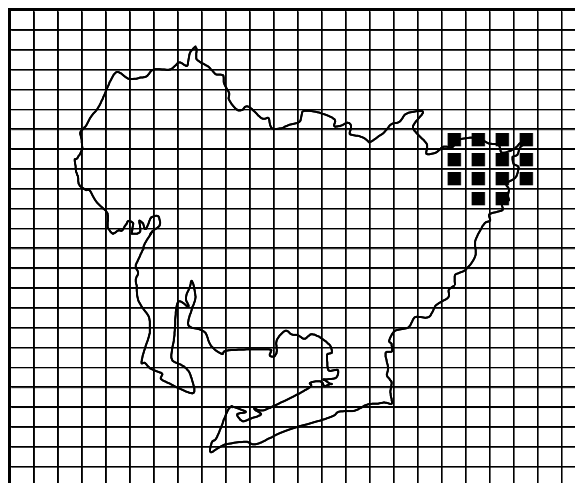
【国内の分布】

本州 (秋田県および中部地方)、九州 (薩摩半島)。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、アムール、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

草地や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

道路沿いの林縁に少数個体が生育していたが、林の木に被陰されて、衰退傾向にある。

【保全上の留意点】

道路の拡幅に際しては配慮を要する。

【特記事項】

ノハラクサフジの名があるが、クサフジ自体草地性の植物である。クサフジは愛知県では津具 (面ノ木峠) の路傍に生育しているが、おそらく法面緑化の際に持ち込まれたものである。本種も法面緑化の際に持ち込まれた可能性があり、もしそうならば保全対象外となるが、移入と断定するだけの証拠もない。

【関連文献】

保草本 II p.108, 平草本 II p.198, 平新版 2 p.300.